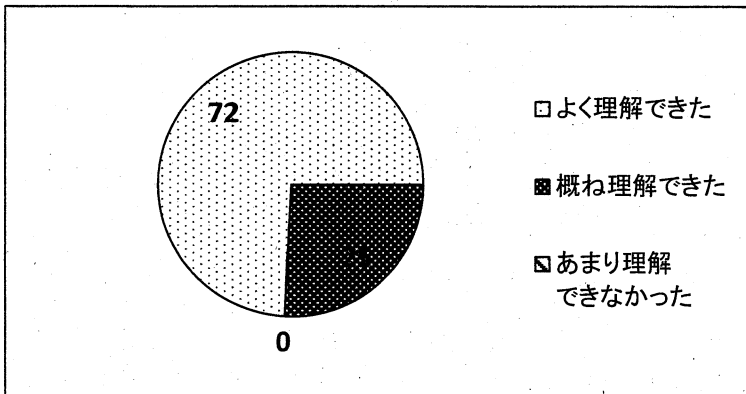


令和4年度民生委員・児童委員人権問題啓発研修 アンケート結果

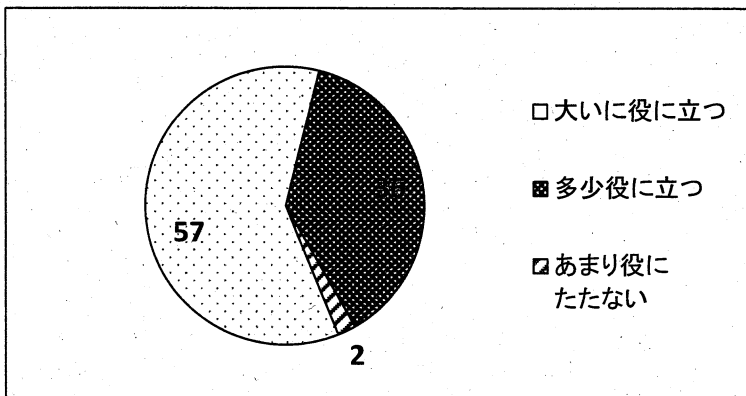
(令和4年10月21日(金)・27(木) 開催分)

1. 講演はよく理解できましたか



よく理解できた	72 人 (74%)
概ね理解できた	25 人 (26%)
あまり理解できなかった	0 人 (0%)
合計	97 人 (100%)

2. 今後の民生委員・児童委員としての活動に役に立つと思いますか



大いに役に立つ	57 人 (60%)
多少役に立つ	36 人 (38%)
あまり役にたたない	2 人 (2%)
合計	95 人 (100%)

3. 今後の研修テーマや行政説明等の希望、その他、御意見等があれば、お書きください

- ・民生委員として保護該当者の発見と接し方の勉強がしたい。
- ・日頃聞けない分野（特に介護etc)のお話をたくさん知る事ができれば、うれしいです。
- ・研修会の時は、席は自由になっているが、座ろうと思ったら、「ここはもうとってあります。」と言われました。そういう事をしていいのでしょうか？席をとった人と、とってもらえた人は、友達だとしても、私は何の関係もありません。友達のために席をとった方は、何も関係の無い人に嫌な思いをさせることになるのです。なぜ何の関係も無い人は、何の関係も無い人に指図されなければいけないのでしょうか？
- ・今回のような現役の人による講演を希望します。
- ・民生児童委員なので、児童に関する事も取り上げて頂きたいです。主任児童委員さんはおられますが、もっと私たちも研修として、お話をお聞きしたいです。
- ・発達障害の子どもや大人との接し方やケアについて
- ・生活している周りに障害の方がおられず、本日の講演と去年の障害の研修でとても現実の生活がわかり参考になります。有り難うございました。
- ・素晴らしい講演会でした。
- ・重度身体障害の社会生活を支援している人達の話を知りたい
- ・ちょっとテーマはわかりませんが、勉強していきたいです。

・前はデフリンピック出場の聴覚障害の方々の事をスクリーンで、今回は当事者のお話。色々な障害の方がおられることが分かります。次回は視覚障害の方、もしくは手話のわからない中途失聴難聴者の皆さんのお話でも良いのではないのでしょうか？

・今回の様な実践の話が身近に感じてよく理解できます。

・今回のような勇気づけられる研修を希望します。

・なかなか難しいが、他にも聴覚など様々な障害のある方や周りの方、施設などの取り組みも聞く機会があればと思います。

令和4年度民生委員・児童委員人権問題啓発研修振り返りシート

講演「医療的ケアを含む重度障害者の生活について—僕のこれまで、今、これからの暮らし—」を聞いての感想・気づきなどを記入してください。

- 大藪さんの声が素晴らしい。耳障りがよい。
- 全国に大藪さんのお話を聞かせていただけたらと思う。
- 大藪さんと同様に、いかなる人も分け隔てない、全ての人が共に暮らす共生生活を望む。
- 大藪さんに暗さがないところがよかった。
- 大藪さんが楽しく子供時代を過ごせてよかったと思う。
- 障害に甘えるなど教えられた。
- こういった方々の楽しみとは何なのだろう？
- 多様性の再確認と許容（精神、文化、身体その他）
- 見えない現実？見ようとならない現実？
- 民生委員の情報収集能力？
- 「助けたい」と思っているもの・・・
- 4、5年前にALSの方の家の掃除と昼食作りの手伝いをしたことがありました。その方はお一人暮らしで車椅子生活でした。お食事もご自分で召し上がっていて、会話も楽しめました。ご自分のお姉さんや他手伝いの方がいらっしやっただけです。その当時も一人暮らしは大変だろうなあ、一人暮らしには勇気も必要だろうなあと思っていました。今も付近を通ると「どうしてはるかなあ」「元気かなあ」などと気になります。
- 他の方々に勇気を与えていらっしやる大藪さんも楽しい毎日を過ごして下さい。私もそうします。
- 重度の障害をお持ちにもかかわらず、海外留学をされたり、とにかくパワーに圧倒されました。今後のご活躍をお祈りしたいと存じます。
- 講演の間、サポートをされている方がスマホを操作されていたのにはちょっと気になりました。
- お忙しい中講演ありがとうございました。幼い頃から現在に至るまでご本人、ご家族、ヘルパーの皆様の心温まる場面、困難な事様々な場面を拝見し、大藪さんが幼少の頃から同じ状態だから何も変わっていないとおっしゃっていましたが、やはり大変な思いをされたと思います。24時間ヘルパーさんの付き添い連携も感銘を受けました。
- JCILのお仕事、生き甲斐を持って頑張ってくださいね。応援しています。
- 自分がその立場になったら、そこで「留学する」という夢を諦めたであろうと思います。意思の強さだけではとても実行には移せなかったと思います。
- 24時間ヘルパーさんやボランティアの方に恵まれていらっしやるのかなーと思います。
- ご自身に障害があったからこそ何かができるという意義を明確に見出したという言葉が印象に残りました。
- 重度身体障害者の方の1日の暮らしぶりが良く理解できた。
- その方のご家族の気持ちや向き合い方がもっと知りたい様に思えた。
- 今まで障害者の方の話聞く事もなく、これほど障害者の方が色々な事に取り組んでいるのには、ビックリ、感心しました。何事も諦めずにしてきた事にすごく心を打たれました。
- 私も障害者の方の見る目が今までよりも変わると思いますし、少しでも手助け出来ればと思いました。
- 重度身体障害者でも「一生親と生活しなくていい。病院で生活しなくていい。障害者でも一人暮らしができる」ということ。私にはその様な発想がありませんでした。人として生きていくと成長したいとか、チャレンジしたい思いは、健常者も障害者もあって当たり前。できないのを勝手に決めつけていたことに気づかされました。
- 「障害者も健常者もまずは、同じ土俵に立ち、その後の事を考えたい」という言葉が印象的でした。
- 大藪さんのお話を聞き、障害者の知り合いができた！くらいに身近に感じる事が出来ました。これからも益々のご活躍を期待しています。
- 当事者の実体験、そのプロフィールやこれまでの生活史を聞いたこと、何より思いの深さや訴えをお聞きできた事は、有意義だったと思います。とても役に立つ研修だと思いました。
- 話がとても聞きやすく、内容も分かりやすく（映像も挟まれ）素晴らしい講演でした。
- ただ24時間のボランティアで支えられている中には、色々な人がいて、不安やトラブル、心配事も多いのではないかと思います。
- 社会全体にゆとりが出来れば、理解の輪が広がるのかなと感じました。
- 問題は個人の能力ではなく、社会、環境に帰属
- 適切な支援があれば、地域で生きられる。—共に生きる—「個人個人のいろんな条件の違いがあるのは当然。それぞれにあった支援や環境があれば地域で共に生きることが可能になる」ということを改めて考えさせられた。
- 頂いた資料の中の写真に写る大藪さんの笑顔が素敵。どの写真も素晴らしい笑顔。この笑顔に大藪さんのこれまでの人生が象徴されている様。
- 障害は障害と共に生きる人が、誇る事の出来る人間多様性の中のごく自然かつ美しい一部であるという認識。今まで気づく事の無かった認識です。

講演「医療的ケアを含む重度障害者の生活について—僕のこれまで、今、これからの暮らし—」を聞いての感想・気づきなどを記入してください。

○それぞれの違いを分かり合い、尊重し合い、違いを楽しみ合う、とても大切な事を教わりました。

○施設での生活の現状について、地域社会で生活する視点からお話して頂き、集団の論理と個性や自由（個人の権利）を考えました。

○すべての人が地域社会で暮らせる様な支えがある社会作りが大事だと感じました。

○当事者の努力はもちろん、介護者の24時間体制のシフトが組んでいることに感心しました

○たじろぐことなく、私にもできることをしていきたいと思います。

○視覚障害者への音読朗読（広報紙や天声人語など）や手引きなどのボランティアをしていたが、医療的ケアが必要な方へのボランティアは、なかなかハードルが高い。もう少し若ければ勉強もできたかなと思いながら講演を聞いておりました。

○当たり前に生きるということの意味が理解できたように感じられた

○一番感銘を受けたのは、以下の一文であった。「地域で分け隔てられず、共に生きられるインクルーシブな環境を！」“インクルーシブな環境”の構築の一助になりたいもので

○地域で身体障害者がおられ、毎日、学校のバスで通学されている。バスを降りて楽しそうな顔をされている時は、「楽しい事がいっぱいあったんだな」と思います。お母さんと何か喧嘩されている様な時は、「どうしたのかな」と思いながら、何も声をかけずにいきました。でも今日のお話を聞いて、これからこの二人を見かけたら、「こんにちは」と声をかけてみようと思います。今まで声をかけてはいけなかったのかな？とっていましたので。良いお話が聞けて良かったです。ありがとうございました。

○楽を選ぶ事無く、壁を健常者と乗り越え、共に「生きる」事のもので。できる生活を送りたい

○施設入所から自立生活に移行するのは、大変だと思う。

○主治医の判断で、余程の事がないと、応援的な支援にはならないのは、当然だと思う。

○老人の場合だと施設入所希望でも入所できないケースがあるが、このような障害者施設では、いろいろな課題があるように感じた。

○職場（役所）で筋ジストロフィーの人を支援した事があるが、その子は、2年程で亡くなられてしまい、両親も大変だと感じている。

○大藪君においては、ホーキング博士の様な事もあるので、頑張ってもらいたい。

○障害種別を問わず、適切な支援があれば、地域で自分らしく生活できるようになってき

○医療的ケアを特別なものでなく、日常生活の一部としてサポートしていく必要がある。

○地域で障害のある人も共に生きられる様に、介護派遣や訪問診療、訪問看護など障害のある人も普通に暮らしていける様に、広く皆に知ってもらいたい。

○初めて重度の身体障害当事者の方の話を聞いたり、動画を見て、重度障害の方が、当たり前に生きたいと思ってても社会に、地域に隔たりができています。もちろん当事者の方も

○介助者に頼りながらの自立生活は、想像出来ないくらいとても大変な事だと知りました。

○大学時代に一人暮らしを始めたり、留学したりと、大藪さんの挑戦する気持ちがとても素晴らしいと思いました。

○生きるって何だろうと考えさせられました。それぞれの環境で精一杯前向きに取り組む事の大事さ、素晴らしさを感じました。

○JCILの存在を知り、活動される様になって、本当に大藪さんにとっても良かったと思いました。

○本人の明るい笑顔に至るまで、多くの嫌なことが有っただろうと思います。そのひとつでも無くなる為に活動できたらと思います。

○地域の資源が増えるには、やはり公的支援が先立つのが大切だと思います。

○当事者でもあり支援者のお話を聞くことができ良かったと思います。講演内容もとても分かりやすく、必要な支援を支援者に的確に伝えてこられた経験が大きかったのかなと

○誰でも出来ないことや困り事を抱えています。それを「助けて」と他の人に伝え、一緒に解決できる社会になればと思いました。うまく「助けて」が発信できない方も多いかと

○民生委員としては、できるだけアンテナを広げ、少しでも困っている方が少ない地域をいろんな方と協力して作っていききたいと思います。

○すべての人が共に生活できる共生社会が早く実現できるよう願っています。その為に私ができることは、広い心と優しさで人と接する事だと思います。頑張ります。

○障害があっても人間らしく生きたいと思う気持ちが強くあり、地域移行は大変な努力が必要ですが、色んな分野の連携が出来れば、成り立っていくのがよく分かりました。

○障害者の方も高齢者の介護も同じように感じました。

○社会での生きにくさがあっても、自分らしく生きられる事は素晴らしい事だと思います。すごく勇気をもらいました。

○介護できる人がたくさん必要だと思います。

○とても分かりやすく、お話に引き込まれました。

○私たちの想像を超える困難があるはずなのに、前向きに生きておられる姿に励まされま

○重度身体障害者への理解が進み、障害があっても、自分達の住みたい所で気兼ねなく住める社会になってほしい。自分達もいつ障害者になるか分からないのだから、誰もが住みやすい地域、社会になって欲しい。

講演「医療的ケアを含む重度障害者の生活について一僕のもので、今、これからの暮らし」を聞いての感想・気づきなどを記入してください。

○重度障害者の方から直接お話を伺う事は、初めての事でした。研修の企画をありがとうございました。

○障害でも色々な障害の方がおられますが、大藪さんは生まれながらの重度身体障害という障害を周りの人たちに助けをもらいながら、明るく生活されており、健康に生まれた事に感謝すると共に、自分の日常生活での要求などは、甘えばかりだと反省させられました。

○大学生生活での距離感が難しかったと言われたように、お互いに同じ不安を抱えながらも、皆さんの笑顔の写真を見て、信頼関係を築かれた達成感のようなものを感じました。

○医療的ケアが必要な方のサポートは、責任が大きく伴うので、尻込みしてしまいがちになります。

○JCILの取り組みが積極的に進められていること、介助者を求めておられる事が分かりました。「共に生きる」本当に大事な事だと思います。そのような社会に近づきたいです。

○このような詳細なお話をご本人から聞かせて頂くのは、初めてでたくさん感銘を受けました。ありがとうございました。

○大藪氏のエネルギーや才能、環境に依拠されるものでなく、全ての希望される方々が、ごく普通の日常生活が送れる社会になることを願っています。

○「地域で分け隔てられず、共に生きられるインクルーシブな環境」そのとおりだと思いますが、大変難しい事だと思います。

○健全な者は健全な者で必死に生きている中で、分かっている手を取られる行為には、時にイラッとすと思う。ただ仲間がいれば、同じ思いの仲間がいれば、何の問題もなく可能になる方向に進むと思います。

○大藪さんは、何回も壁を壊して、仲間を作ってこられてます。挑戦続けて欲しいです。理念は絶対正しいと思います。

○明るくてハンサムなお兄さんのお話が聞いて、楽しかったです。

○社会モデルの〇〇すればできるという考え方は、意識していたいなと思いました。

○NHKの「バリバラ」という番組が好きで時々見て、24時間ヘルパーさんとの生活は、見たことがありましたが、乙訓でもすいう生活をされている方がおられるのを知り、身近に感じる事ができました。

○当事者の方々が民生委員に期待することがあれば、聞かせて頂きたいです。当たり前な生活を送るために、具体的に出来る支援は何か、自分が直接関わるようになった時は、できるだけ楽しく共生出来るようにしたいと思います。

○28年間の重度身体障害者としての歩みを公の場で、自分の言葉で受講者側のことも考慮しながら、分かりやすく話をされる姿に感動しました。

○講義の中で、これまで生きてきて、何故自分は重度身体障害者として生まれてきたのか？そして、電動車椅子生活を強られるのか？一度も悩み苦しんだ事は無いという考え方ができる事に、人間としての奥深さを感じ、感銘さえ覚えました。

○今回の講演から学んだ「それぞれの違いを分かり合い、尊重し合い、違いを楽しみ合うという姿勢が大切」を肝に銘じて民生児童委員の活動をしていきたい。

○人間の生きる力の源は脳なんですね。

○身体の全ての機能を失っても、脳は成長し、活動しているのだと実感しました。

○自立して、自分で生活されていて、大変な事たくさんあるだろうけど、とても立派だと思いました。

○障害のある方本人から話が聞けたのが良かった。

○今まで障害者に対して、困っているだろうから、助けてあげたいとの思いから、必要以上の手助けをしていたように思う。

○自立出来る様にする為には、出来ないところ、出来ない部分だけの手助けでよく、それ以上の手助けは、障害者にとって不必要（大きなお世話）であると思う。医療的ケアの必要性をつくづく感じた研修でした。

○今まで人権学習として、様々な研修や講習に参加しましたが、改めて知っているようで知らない。分かっていたようで、分かっている自分がいました。大藪さんから直接お話を伺い、日本自立センター（JCIL）の存在も知りました。

○大藪さんをはじめとする障害者と言われる方々の「自分らしくあるため」の挑戦に頭が下がりました。

○医学モデルから社会モデルへの移行は、ここ数年で格段に進み、整備が行われていると思いますが、国連からの提唱もあった人権モデルへの移行は、日本人独特の気質もあってか、なかなか進まないのではと思います。しかし、地道ではありますが、今日のような学習や研修を繰り返し行う事で、意識改革が生まれるのではと思います。

○大藪さん達がこの先目標とされる「地域で共に生きる」には、まだまだ数多くの課題がある中、一歩一歩進めよと活動されている姿が印象的でした。

○障害がどうのと言うより、大藪さん達が大事とされている「地域で分け隔てられず共に楽しく生きられるインクルーシブな環境・関係」これは私たち民生児童委員が地域で行う活動そのものであると思います。一人一人の意識が少し変わること、きっと何かが生まれるだろうと思います。

○人はやっぱり人との関わりの中で生き、生かされていると思いました。

講演「医療的ケアを含む重度障害者の生活について—僕のこれまで、今、これからの暮らし—」を聞いての感想・気づきなどを記入してください。

○うまく文章にできないのがもどかしいですが、私にとって今回の研修は、とても刺激になり啓発になりました。きっと、他の方々も何かを受け取られたのでは、ないでしょうか。ありがとうございました。

○一人暮らしが出来、自立して生活している事、普通に当たり前の生活ができてい事は、充実感があり、希望を実現出来ていると思い、本当に良かったと思う。

○今の社会では、保育所では先生が一人付き、お友達と楽しく生活ができて、小学校に進学すると普通に近くの小学校に通う事が難しいものです。

○ずっと自分の希望する社会で、ありのまま生きていける社会になって欲しいです。

○今日講演して頂いた大藪さんの話をお聞きして、確率は少なくともこの病気が発症する可能性は誰にでもあると思った。

○今までの風潮では、出来ないのだからしょうがない。家族が世話をするとするのが当たり前であったと思うのですが、ボランティアや医療的ケアのすごさを知りました。

○大藪さんの前向きで好奇心旺盛な所も素晴らしい。

○人間気持ちはあれば簡単ではないけど、進んでいけるのですね。

○自立生活センターで希望する方の手助けをこれからも頑張ってもらいたいと思います。

○24時間介助がいる方が、1人暮らしをされている事を知りませんでした。自分の意志で外に出てみたいという思いは、誰にでもあるはず。地域で暮らす事が当たり前になっていく事が受け入れられる社会になるといいです。

○今回は特に研究者や専門家といった方々では無く、ご本人がご自身の体験、経験を含めたお話を交えながらの講演でしたので、講演内容の流れも理解し易く良かったです。

○民生児童委員になって6年が経ちましたが、地域の力というか、そこに住んでいる私も含めて、共に生活し合っている地域の大切さを日々感じております。

○大藪さんの前向きな姿勢に頭が下がると共に、この講演を聞き終えて、障害のある方々については、まだまだ勉強不足ですが、参考にさせていただき、改めて日々の活動に役立てていきたいです。

○脳機能に異常がないのに、身体が機能しないとは、何とももどかしい思いの中、生活されているのだと思いました。不自由な中でも、日々喜びを見つけておられ、豊かな心でおられ、努力なしではあり得なく、頭が下がる思いです。

○私たちに何が出来るかと問われても、何も出来ません。せめて、もっと寛容な人間になりたいと思います。有難うございました。

○とにかく逞しい大藪さん、常に前を向いて人生を切り開いて来られましたね。

○僕はこの身体しか知らないから、他人をうらやましく思うことはないと言言されています。ここに至るまでどれほどの苦労や努力があったことでしょう。

○この力強さにひかれてボランティアの仲間が自然と集まってくるのでしょうかね。

○講演の中で「多様性の美しさ、障害は障害と共に生きる人が誇る事の出来る人間の多様性の中のごく自然かつ美しい一部」と主張。全くその通りです。

○本人が望めば地域で共に生活できる、そんな世の中になってほしいです。雨が降ったら傘をさし、目が見えづらくなったら眼鏡をかけるのと同じくらいに、ハードルが低くなるよう、社会でのより一層の理解と協力が必要です。当事者だから出来る活動に期待してい

○何年か前「こんな夜更けにバナナかよ」の映画観ました。大藪さんがモデルだったので

○近年聴いた講演の中で一番心に残る素晴らしい講演会でした。

○「命を落とすリスクがあっても病院の中で生活するのではなく、地域の中で普通に暮らしたい。独り暮らしがしたい。・・・そんな人の為にできる事・・・」という一番伝えたいことを、ご自分の生い立ちと現状を赤裸々に話されました。そして、社会や制度の現状と「地域の中で普通に独り暮らしがしたい」と思っている病気の方の思いを教えられまし

○声だけ聴いて、スクリーンを覗いているだけだとテレビのナレーションのようでした。とても身体が動かさない人が話しているように思えませんでした。その方が「僕は大学にも

○行った。留学もした。普通に生きて、地域の中で一人で暮らすことが出来て・・・それが幸せです。」と話されました。高齢になり少しは先が見える中で、改めて自分の幸せは何か、今から出来る事は何か、いろいろ考えさせられる、本当に素晴らしい講演でした。

○94年生まれには、大谷翔平や羽生結弦など有名なヒーローがたくさんいますが、大藪さんも立派なヒーローだと思います。

○重度身体障害者の方のお話を直接聞くのは初めてでした。

○大学へ行き一人暮らしをして、海外へ研修に行く。ヘルパーの手を借りて地域で一人暮らしをする。驚くことばかりでした。支援を必要とする人が、また支援をする側にも立つ

○全く考えつかないことでした。障害のある人は、支援を受ける側にしかないという偏見を、自分が持っていたのに気付きました。

○ヘルパーを就労中はつけられないことを知りませんでした。可能になったことで、障害のある方の就労が広がればと思います。

○インクルーシブという言葉を知ることができたのも有意義でした。

○住宅事情などさまざまな問題をクリアして社会の中で生きる、地域で安心して暮らせるまちづくりが必要だと感じました。有難うございました。

講演「医療的ケアを含む重度障害者の生活について—僕のこれまで、今、これからの暮らし—」を聞いての感想・気づきなどを記入してください。

- これまで多数の方の支援を受けて、大学まで出て、障害者支援活動に従事されてる大藪さんには敬服します。又、日常生活、活動を支援して下さるサポーターの方々にも感謝の言葉を贈りたいと思います。
- 他から見た思いはわかりませんが、国や地方自治体の福祉活動も十分とは言えないかも知れませんが、福祉に関する自治体の財政支出には、大きなものがあると思います。
- 他方世界を見るとウクライナ、ロシアを始め、未だに紛争が絶えません。戦争における被害者の事を思う時、改めて日本は平和だなあと感ずるを得ません。現実を見つめ私達も人権福祉活動に力を注ぎたいと思います。
- 今日、重度身体障害者の方自身が、自分の生き様、思いを話され、それを直接聞いたことで、とても心に響きました。
- 話の中で、「4年たち友達に全然普通やな」と言われた。というエピソードを話されましたが、一緒に過ごしても4年かかる。私達の感覚です。社会全体が、障害者は遠い存在で知らぬうちに隔たりの中で互いに生活してきたように感じます。
- 今日話されたように、皆が当たり前前の生活を送れるように、社会も人の意識も変えていかなければいけないと強く思いました。
- 日々のドキュメントや写真を見て、介助されている若者達、そして障害者さんも皆自然でいい表情をされているので、未来の姿にとても明るいものを感じました。区別せず、皆が助け合いながら共に生きていく社会に一步近づいているんだと嬉しく見せてもらいました。
- 大藪さん有難うございました。これからもあふれる思いを皆に届けて下さい。
- 生の声が聞けて良かったです。いろいろ考えさせられました。「共に生きる」個人の能力ではなく社会環境を整える（私は何が出来るだろうか？適切な支援、サポート？）
- 大藪さんの前向きな姿勢、明るさにとても救われました。
- 先ず思った事は、大藪さんご本人の意志が強く、どんな事にも立ち向かっていくバイタリティもあり、強い方だな、と思いました。また、まわりの環境にも恵まれておられた。
- 障害を持った方でも“普通に生活”出来る事の大切さを改めて感じました。医療的ケアに、もっと力を入れていかなければならないですね。有難うございました。
- 重度身体障害者の生活は苦勞と努力の成果であり、それに携わるボランティアがいるから暮らしていけることの再確認ができた。
- 今後も若いボランティアの養成が必要だと思う。
- 映画「こんな夜更けにバナナかよ」を見てある程度は知っていたが、まさかこんな近所で実際に暮らしている方がいらっしゃるなんて驚きでした。
- ボランティアの方の話も少し聞けるとよかったです。
- 重度身体障害者の方からのお話を聞く事が、今まで全く無かったのでとっても新鮮な気持ちで聞かせていただきました。そういう方々と接する機会も全くなかったので、気の毒だなあとという気持ちだけだったんですが、見方が変わったと思います。
- 障害がありながらも前向きに活動されていることに大変驚きました。自分の人生をしっかり歩まれている姿は、今後、年とともに体の衰えを感じる時など、お話を聞いた事で大変勇気を頂いた気が致します。何事も自分の気持ち次第ですね。
- ご本人から直接お話が聞けて大変よかったです。貴重なお話を有り難うございま
- 誰もが「あたり前に自立した生活がおくれる。」が当たり前になるような世の中になるには、まだまだ課題がたくさんあるなと感じました。
- 重度身体障害者、知的障害者、発達障害者、etc.、それぞれの障害により課題も異なります。さらに理解を深め、少しでも力になることができると思います。環境を整える面で、まだまだ課題は山積みですね。
- 特に印象に残っているのは、支援学校の担任の先生の「独立自尊」～障害があろうと、自分の人生は自分で決めていかなければならないという指導と、お父様の「どうやったらできるかを考えなさい」という言葉です。
- 28歳の青年として自分の言葉で語ってくださるその姿がとてもまぶしかったです。
- 頭では理解する事と、具体的な経験を通して感じることは、2つ揃ってはじめて身になるのだなと、「当事者」の方のお話をうかがえることのありがたさをつくづく感じました。
- ぜひ、いろんな学校で子供たちにお話していただきたいと思いました。
- 弱い立場の人が生きていける世の中でなければいけないと思う。
- 医学モデル→社会モデル→人権モデルへと自立支援に必要な支援する人達の役割の必要性を見ました。
- 今日の研修で、大藪光俊さんの自分は「ラッキーだった」と言われていましたが、言えない事も一杯あったと思いますが、「これからも前に進んで下さい」と節に思います。
- ご本人のお話を聞かせて頂きましたが、周りの人達の理解とお手伝いがあったこそだと思いました。
- なかなか理解してもらうのには、時間が必要であったと思います。ご本人の性格もあるでしょうし努力をされたのだと思います。
- 同じ考えの人達ばかりではありませんし、強い人だなあと感心しています。健常者でも病氣やけがをすると落ち込む事が多く有ります。何か出来る事を見つけようと思います。

講演「医療的ケアを含む重度障害者の生活について—僕のこれまで、今、これからの暮らし—」を聞いての感想・気づきなどを記入してください。

○大藪さんが介助者の方と移動する姿を幾度か見ました。電動車椅子の背後を介護者の方が歩き「必様な時にだけサポートするんだな、主体はあくまでも、大藪さんなんだ」と本日の講演を聞き、そんな感じがしました。

○身体が自由がきかなくても「こうなりたい」「あれをやりたい」という意欲のある方には、その意欲を支える事が重要と悟りました。

○今度、大藪さんをお見かけした時は、遠慮せずに声かけ挨拶します。

○今の私には、こんな事しかできませんが、出来る限り理解を深め、精神的支援から徐々に始めたいと考えています。

○障害があっても自立した生活を目指すという決意と行動力に加え、仲間の人達の手助けをするという意識が素晴らしいと思いました。

○自分自身、自立した生活を送っているのかと考えると否、働いて自分のお金が有るかと問えば否だし、いろいろ考えさせられました。

○年をとったので、何も出来ないとか、若過ぎて何も任せてもらえないとか、男だからとか女だからとか、あらゆるところで区別なのか差別なのか、本当に自立という言葉は重く

○障害者の「社会モデル」を街で見かけることがある。本人と支援者に対して大変だなと

○障害者に対しては手助けは出来ないが、がんばってほしいと思う。

○医療的ケアを必要とする障害者が多いことにおどろきました。全ての障害者に支援が行き渡るように望みます。

○生まれてきたことへの恨み言はなく積極的に生きられる姿に我が身を顧みて出来る事ではないと感動しました。

○自立を求められることに対して、医者は立場上、生命を守ることを第一に考えるので、生活の質を第一と考える診療指針を医学界で決めることが必要と感じました。

○介護者のボランティアの方、ヘルパーの方が存在することに力づけられました。ただ、どちらかが支配者にならない様、関係を正していくチェック機能もどこかに必要では

○障害の方、家族の方がそれぞれの人生を望む形で送ることができる福祉を実現するには、現状では各自治体の資力によるしかなく、豊かな自治体を創る努力が必要と感じまし

○私には大藪さんの気持ちがわかるはずはないと思いますが、「障害のある人に健常者と同じを求めるのでは無く、社会が受け入れられる環境に変わっていく」なら、私にも何か出来る事がある様に思いました。

○大学で初めて感じた戸惑いを「宇宙人との遭遇」と表現されていましたが、その気持ちが少し分かる気がしました。それは、私は障害をお持ちの方と会ったら、やはりどう接したらいいかとまどうと思うからです。車椅子はその方の足の代役とわかっていても、やはりかまえてしまいそうだからです。

○医学モデルから社会モデル、そして人権モデルへと進んでいくことの大切さを学びまし

○大藪先生のお父様の大きな愛情にも感動しました。先生ご自身の強さやヘルパーさんの働きにもです。

○私たちは、お互い自分の今までに経験したことの無い状態を見聞きすると戸惑うと思

います。大藪さんの様な状態の方のお話を直接聞く機会は、今までありませんでした。理解するためには、当事者の話を聞くことが第一だと思います。

○個人の主張ばかりでなく仲間達との今後の事を考え、自立されている大藪さんの話だからこそ、よく理解できました。

○支援をする人の確保は、これからも大変だと思います。当事者だけでなく、ヘルパーさんの生活が安定するような世の中になりますように・・・

○できない事より、どうやったらできるかという前向きなご両親の接し方は、自立につながる言葉だと思った。

○大藪さんの当事者としての熱のこもった思いあふれたお話に大変感銘を受けました。

○諦めずに対話を重ねて、やりたいことを一歩ずつクリアされてこられたバイタリティはすごいです。

○「どんな人も分けられるのでは無く、同じ地域で共に暮らす」「インクルーシブな環境」の実現には、実際はかけ離れていると感じます。

○重度障害者の方は、身近にはいませんし、例えば認知症の方が地域で安心して暮らすのにも様々な壁があるのが現実で、なかなか当たり前にならない事が悲しいです。ですが、大藪さんのお話を伺っていて、諦めてしまっていたのは実現しないという、当たり前の事なの

のですが、それが大事なのだと改めて思い知らされました。

○誰もが、それぞれの場所で諦めずに努力すれば、景色は変わっていくのですね。

○筋ジスの方々の「地域移行」や重度障害者の就労等、大藪さんの活動を応援しています。又、町でお見かけした時は、お声をかけさせて頂きますね。

○ご本人の普段の生活の様子や、今後の課題等を直接聞くことができ、とても良かったと思います。

○私も少しでもお手伝い出来る事があれば、積極的に取り組んでいきたいと思いました。

○大藪さんの講演を聞いて、これまで漠然としか分からなかった重度身体障害者の事を、改めて考えさせられました。

講演「医療的ケアを含む重度障害者の生活について—僕のこれまで、今、これからの暮らし—」を聞いての感想・気づきなどを記入してください。

○特に大藪さんの日常、そしてそれを支えるヘルパーさんの姿は、衝撃でした。そして、そのチャレンジ精神にとっても、勇気、元気を頂きました。

○このような講演会をもっと多くの人たち、そして子供たちにも聞いてもらいたいと思いました。

○大藪氏、ご家族、ご親族にとって「大変ですね！」の一言では、済まないことだと思いますが、頑張って生きて下さい。

○貴重な実体験、講演でした。ありがとうございました。

○以前、障害者のガイドヘルプ、ホームヘルプもしていて、障害者の方の生き方にパワーをもらっていましたが、今回も大藪さんの話を聞かせて頂いたり、動画を見せて頂いたりして、チャレンジ精神にも感心し、やはりパワーをもらうことができました。

○常にネガティブになることを反省します。

○大藪さんへの伝言です。「これからも身体には充分に気をつけて、前に向かって生きて下さい。応援しています。そして、また違う新しい出来事やチャレンジなど聞けることを期待しています。」

○自分の考えを持ち、発言できない人の為にも充実した生活、生き方ができるよう講演されているのですね。とても分かりやすく、以前より近く感じました。

○重度の身体障害を持ちながら、様々な事に挑戦されている事に感銘を受けました。

○大藪さんの常に堂々とした立ち振る舞いに大変感動致しました。誠に素晴らしい講演で

○普通に育ててくれた。その様な父親がどうやって出来るかのヒントをもらいました。

○周りの環境の良さが有り、常に前向きな生き方をされている。問題はすべて個人の機能、能力に帰属から、問題は個人の能力ではなく、社会、環境に帰属。

○何もかも自分一人で出来ないことばかりだが、人の助けにより自立生活開始される勇氣、行動に対して、感銘を受けました。

○筋萎縮症の人については、歩行ができない。人工呼吸器の装着など、人間としての活動ができない姿を痛々しく感じていました。しかし、今回の研修で、大藪さんの体験を通じて、社会的な体制を保障すれば、身体障害者も平等の人間として、生きることができる。それが人間としての権利であることを確信しました。

○現状では、多くの人のボランティアが無ければ、身体障害者の活動は、不可能です。

○国、自治体の制度化を確立していくことが必要であると思いました。

○すごく感動しました。これほどの重度身体障害の方が自立して、一人で暮らされているなんて、すごいです。

○ご本人（大藪さん）にしてみれば、普通の事なのかもしれませんが、大学に行かれて、アメリカへ留学され、日本に帰ってからも働かれて、「すごい」の一言です。

○自分だけの事でも大変だろうに、入院されている筋ジスの方の自立のお手伝いもされて、考え方もポジティブで、すごく前向きで、見習わないといけないですね。

○大藪さんの講演や生活されている映像など、小学生や中学生などの若い人に見てもらって、若い方のヘルパーやボランティアが大事で必要だという事を分かって欲しいと思いま

○大藪さんのポジティブな生き方に感動しました。

○障害の社会モデルの所で、旧来の医学モデルから社会モデルという考え方は、参考になりました。障害を持った方や高齢の方に対するとき、その方々の“目線”に立ってと言われますが、そういうことなのだなと思いました。

○障害者の方が本当に頑張っておられるのを知らなかったのが、講演を聞いて良かったです。障害者の方のお力になりたく、応援したいです。

○“たとえ命の危険があっても、自立して生活したい”という事には衝撃を受け、私の思い込みの認識の間違いに気づかされました。

○障害をお持ちでも常に前向きに、何事にも挑戦しながら生きておられるのを講演やビデオで目の当たりにし、感動いたしました。

○共にできることを、お互い補いながら、生きていく事の大切さを、これからの民生の活動にも心に留めながら、頑張らねばと思っております。

○良いお話を聞く機会に巡り会えて良かったです。ありがとうございました。

○普段聞けない内容のお話だったので、良かったです。

○重度障害者の方の中でも、強い意志を持っている方、お一人で生活しようと思われている方が、安心して生活していこうと思うと介護者、ヘルパーの方々が揃うことも大切。

○特に映像によると、男性ヘルパーさんが、一日を3人交替でサポートされている様子に援助する方々が、たくさん研修を受けて育つ事が必要と感じました。

○大藪さんは留学できたり、組織でのポジションもあり、ある程度安定されていると思いました。

○自分の身近にそのような心配をする人もなくこれていることに、感謝しなくてははいけないとも思いました。ありがとうございました。

○今日の大藪さんのお話は素晴らしかったです。感動しました。

○大藪さんの力強い生き方は、見習いたいと思いました。

○自立生活は、自分の意志を伝える大変さがあり、精神力の強い方だと思いました。ヘルパーをされる良い方との出会いが大切ですね。しかし、ヘルパーの方が少ないのが心配で

講演「医療的ケアを含む重度障害者の生活について一僕のこれまで、今、これからの暮らし」を聞いての感想・気づきなどを記入してください。

○今日は障害のある人が普通に暮らしておられる事を知り、分け隔てなく共に生きていけたら良いと思いました。これからも頑張ってください。今日はお疲れ様でした。

○大藪さんは不自由な身体にも関わらず、意欲的な生き方に感動しました。

○障害者施設でホームページを開いて活動していた人が途中でやめてしまったこともあり、継続するのも大変だったと思います。

○積極的に働きかければ、周りの人の援助も得られると思いますが、苦労は多いと思います。

○益々、幅広い活動を期待します。頑張ってください。

○障害があることがどれだけ大変かを思い知りました。

○生きていることは、いかに有り難い事か、幸せな事か、痛感しました。

○PV1の動画で少し酔いました。画面の大きさなのか？カメラワークをゆっくりめにされると良いかと思いました。

○小学生の時、中学生の時学んだ事は、後で残ると考えられる事は、素晴らしい。大学の時もすべて自分で考えられる気持ちが素晴らしい。ダスキンも全て見習いたいと思います。

○「内在的に感じている恥じらいを打ち破り無くすこと」大事なことだと思います。

○精神障害をお持ちの方や社会的看護で育った方も同様の話をされています。「それが有ったから今が有り、この活動ができています。その事実が自分のステイタス」と言われて

○障害分野、高齢分野、児童分野それぞれの縦割りでなく、すべて包括的にインクルーシブで見なければならぬこともあると、強く感じました。

○就労中のヘルパー利用が出来る事、すごいと思いました。

○できる事を考える。「独立自書」社会モデル、次の人権モデルの社会となりますように、私たちもできることをしましょう。

○身体障害者に対して、日本人は当事者及び健常者も遠慮します。欧米の方々は、当事者自ら権利を主張出来ます。

○日本人の圧倒的多数は、迷惑をかけられないと遠慮してしまうことが多いと思います。

こういう状態を覆すのは、大変な事と思い至りました。意識改革が進んで欲しいと思います。

○電車の中で、車椅子の中年女性が下車をする様に見えました。一人の方が、親切心で車椅子を押しかけました。それに対して、車椅子の女性は、強い態度で拒否されました。こういう場面を見ると心が萎縮してしまい、この方は、二度と同じ行動はされないのかしらと、辛い思いで見えていました。私も後悔しています。その方に声をかければ良かったと。

○重度身体障害者の講師がいろんな困難を乗り越えて学び、行動し、現在に至る様を学べ

○困難を解決しながら大学進学、留学を経て学んだ経験を生かし障害者運動に従事されていることに感激した。

○重度身体障害者がもっと自立でき、地域に溶け込んで生活出来るようになることが大事だと感じた。

○重度身体障害者が自立でき、地域で暮らせるためにはどうすれば良いか、基礎就労できるようにするための課題を行政が理解し、支援できるような社会環境と体制をつくっていくことが必要だと思う。

○大藪さんが育つ中で、親が「したいことがあったら、出来ないでは無く、どうやったら出来るか考えていこう」と言われていたと聞いて、素敵な家族の中で育ててきているなど

○鳴滝の先生が、「障害に甘えるな」「独立して生きていけるように」と怒っていたの

が、今は感謝で、自分の基礎。諦めないで挑戦する。自分の目標を諦めずに進む。周りの人に助けを求めるのは、全ての人に通じる言葉だと思いました。

○旧来の医学モデル（できない）から社会モデル（社会、環境の整備でできる）へ更に人権モデル（どんなだろう）、障害者も自分から声を上げていく、障害がないとできない事があると実証されている姿に感動しました。

○だんだん自分が年齢を重ねると出来ないこと、出来なくなったことを数えてしまう自分がいましたが、今日の話聞き、それじゃどうしたら出来るか？考えたら意外に簡単な事なのかもしれないと思いました。頑張りすぎずに楽しく頑張ります。

○私の娘も発達障害ですが、ガイヘルに行っても「楽しかった。お母さんもまた行こう」といつもうれしい報告をしてくます。買い物もやはり支払いは不安で、着いてきてとレジまで着いてきて欲しがりますが、大藪さんの言われる通り、ちょっとの助けがあれば、買い物も楽しんでくれます。

○今日はしっかり話されるのを聞き、何か胸にこみ上げるものがありました。大変だけど、これからもいっぱい講演して下さい。ご苦労様でした。

○講演を聞いて、自分で発信出来る方の講演だったので、当事者の思い等は、よく分かりましたが、自分で発信出来ない方も大勢いらっしゃいます。介護しておられる方からの話も聞けたらと思います。

○自分だけ車椅子？！の大学生活。車椅子でも、同じ生活ができると分かってもらう！その行動力に感動しました。

○社会モデル→個人の能力では無く、社会が適応していない。

○地域で共に生きられる社会の実現を切に願います。

○地域移行支援→望む暮らしの実現もすごいです。

○明るく前向きな姿勢に感銘を受けました。

講演「医療的ケアを含む重度障害者の生活について—僕のこれまで、今、これからの暮らし—」を聞いての感想・気づきなどを記入してください。

○時にユーモアをまじえてお話される姿を拝見していて、ご両親をはじめとする環境に恵まれていらしたのだろうと拝察。

○自立生活支援の核となつての今後のご活躍を祈念すると共に、どうしたら後援者の方の様な人を育成できるのかが、家族や社会の問題として意識された次第です。

○重度障害者でありながら大学に入学し、大学近くのアパートで一人暮らしをし、更にダスキン海外派遣生としてアメリカシカゴへ、そして帰国して自立生活センターに現在勤務されていること。これらの経験は、家庭が恵まれた環境にあった事は否めないと思いますが、それよりもご本人が常々前向きな向上心を持っておられたからだと思います。尊敬に

○他社と比べて自己批判する事無く、障害があってもしたい事を努力する。夢に向かって挑戦する。この様な心の強さは、どこからきているのだろうか？

○家庭環境、社会環境、支援の大切さに気づかされた研修であった。

○町の中で、障害を持つ人がどのように生き、どのような事を望んでいるのか、やはり当事者の声を聞くのが、一番だと思った。

○大学で一人暮らしをするときに生じた様々な問題やアメリカ留学への事。そして、今現在の活動で目指されていることなど、滅多に聞くことの無い話が聞けて良かった。特にその中で、障害者に対して、「助けてもらう存在」「周りに迷惑をかけないように」という社会の見方とかに触れられ、はっとしたりすることも多かった。

○先ず大藪氏の前向きで意欲的な姿勢に感動しました。

○したいことがあるけれど、できない障害者が多数であること。誰しもがしたいことができる土台を整える事が大事であること。一緒に考えていけたらいいと思います。